

今回は受験生が引っかけやすく、またその見極めに苦勞する問題に的を絞って知識を整理しましょう。

それでは早速問題です。以下の英文中の空欄に入れるのに最もふさわしい選択肢を選んでください。

1. They are not very different (            ) character.

- ①from    ②to    ③than    ④in

2. I'll answer you as (            ) as I am able to.

- ①long    ②far    ③much    ④well

3. The building is (            ) from completion.

- ①free    ②far    ③different    ④resulted

4. The plan which he had arranged was (            ) from danger.

- ①free    ②far    ③different    ④resulted

5. I don't want to meet him. This is (            ) I had a violent quarrel with him last week.

- ①how    ②why    ③because    ④who

6. I (            ) in China for three years when I was a child but I can't speak Chinese at all.

- ①have been      ②have once stayed      ③lived      ④had lived

【解答&解説】

1.

They are not very different (            ) character.

- ①from      ②to      ③than      ④in

《解答》

④(彼らは性格的には大して違いはない)

《解説》

differ[be different] と来たら、A differ[is different] from B しか知らなかったという人は勉強不足。A differ[is different] in B というのもあるのだ。両者の違いは以下の通り。

①A differ[is different] **from** B は**AとBは同種(同質)**のもの同士になる。

(ex) My opinion is different from your opinion.

ボクの意見は君の意見とは異なる。

確かに上の英文のAにあたる my opinion と、Bにあたる your opinion は同じ「意見」、つまり同種(同質)なるもの同士だ。

②A differ[is different] **in** B は**AとBは異種(異質)**のもの同士になる。

(ex) People are different in their views of life.

人は人生観が異なるものだ

確かに上の英文のAにあたる People と、Bにあたる their views of life は内容的に異なるもの、つまり異種(異質)なるもの同士だ。

本問のAにあたる They と、Bにあたる character は異種(異質)なもの同士。したがって正解に from は入れない。in が正解となる。

2.

I'll answer you as (            ) as I am able to.

- ①long    ②far    ③much    ④well

《解答》

②(答えることができる限りはあなたにお答えするつもりです)。

《解説》

as[so] far as S+V～も as[so] long as S+V～ も、「～の限りでは」と訳せるので、その違い、文法問題での両者の入れわけが苦手な受験生は多い。

(1)as[so] far as S+V～:～に関する限りでは、～について言えば

(ex) as far as the eye can see[reach] 目の届く限り

as far as we can judge 我々の判断できる限りでは

as far as A is concerned Aに関して言うと、Aに関する限り(では)

as far as A know Aの知る限りでは

(2)as[so] long as S+V～

①[時] ～する限り、～する間は =while S+V～

=for as long as S+V～

(ex) As long as he's here, I'll have more work to do.

彼がここにいる限り私の仕事がふえるだろう

②[条件] ～(し)さえすれば =if only S+V～

※仮定法には用いない

(ex) I don't care as long as you are happy.

あなたが幸せでありさえすれば私はかまわない

「as[so] long as」と「as[so] far as」の使い分け方は、前者(つまりas[so] long as S+V～)は「時間の限度」と「条件」を表し、後者(つまりas[so] far as S+V～)は「範囲(程度)の限度」を示すということ。つまり「**範囲**」というニュアンスが感じられる場合には **as[so] far as** を、「**期間・条件**」のニュアンスが感じられる場合には **as[so] long as** を使うといい。

で本問は、「答えることができる限り → 答えることができる範囲内で」と「範

困」というニュアンスが感じられるので、②(far)がよいのである。

3.

The building is (            ) from completion.

- ①free      ②far      ③different      ④resulted

《解答》

②(その建物は完成にはほど遠い)

《解説》

far from A は「全く A ではない」。free from A は「A がない」。両者も使い分けに苦勞する。これを一発解決する方法を伝授しよう。

(1)far from A

far from A は「A から遠い」という意味から転じて「A からはほど遠い→全く A ではない」という否定の意味を表す。

from の後ろには、名詞以外に(beingの省略された)形容詞が来ることできる。そして far from は not ~ at all で書き換えられる。

(ex) He is far from (being) happy. 彼は全く幸せではない

確かに上の英文は He is not happy at all. と書き換えることができ、from のうしろには(beingが省略された結果として)形容詞の happy が来ているのがわかる。

(2)free from A

free from A の A には「嫌なもの、あってほしくないもの」を表す名詞(不安・心配・苦痛等)が入る。

(ex) Her composition is free from mistakes.

彼女の作文には間違いがない

上の英文でも、from の後ろには mistakes という、作文(composition)にとっ

ては「あってほしくないもの」がきているのがわかる。

そうすると本問は、completion(完成)というのは、建物(The building)にとって「嫌なもの、あってほしくないもの」ではないので①はない。②なら意味も通り、これが正解と分かる(③では意味不明。④の場合、is resulted というような語法はない)。

4.

The plan which he had arranged was (            ) from danger.

- ①free      ②far      ③different      ④resulted

《解答》

- ①(彼が調整した計画には危険はない)

《解説》

3.の解説を読んでもくれた読者は、正解が①になる理由は簡単に理解できるはず。計画(The plan)にとって危険(danger)は「あってほしくないもの」だからだ。

5.

I don't want to meet him. This is (            ) I had a violent quarrel with him last week.

- ①how      ②why      ③because      ④who

《解答》

- ③(私は彼に会いたくない。というのは先週彼と大喧嘩したからだ)

《解説》

This is why S+V~(こういうわけで~) と、This is because S+V~(というのは~だからだ) も、受験生にとって使い分け、見極めがしづらい表現のうちの一つ。

この両者を使い分ける方法が以下だ。

①This is why は、前後を「原因と結果」の関係でつなぐ。

(ex) He caught cold. This is why he cannot attend the meeting.

彼は風邪をひいたのです。こういうわけで彼は会合には出席できません

確かに「彼が風邪を引いた」と「彼は会合には出席できない」というのは「原因と結果」の関係なのがある。

②This is because は前後を「結果と原因」の関係でつなぐ。

(ex) He cannot attend the meeting. This is because he caught cold.

彼は会合には出席できない。というのは彼は風邪をひいたからだ

今度は先程とは逆に This is because の前後が「結果と原因」の関係になっているのがわかる。

そこで本問だが、「彼に会いたくない」と「先週彼と大喧嘩した」という内容は「結果と原因」の関係になっているのがわかる。そこで③(because)を選択する。ちなみに This is how S+V~ は「こういうふうにして~」。本問では文意が合わない。

6.

I ( ) in China for three years when I was a child but I can't speak Chinese at all.

①have been      ②have once stayed      ③lived      ④had lived

《解答》

③(子供の頃3年間中国に住んでいましたが、中国語は全く話せません)

《解説》

この英文は、過去の事実(経験)について述べているだけなので、過去時制(lived)

を選べばいい。

①と②が不正解の理由は、「**明確な過去の内容を表す語と現在完了をセットで用いることはできない**」というルールがあるため。本問では when I was a child がそれにあたる。このような語句には他に yesterday, three years ago, just now 等がある(特に **just now** は要注意。なぜなら just だけ、now だけなら現在完了と共に用いることができるからだ)。

それから、④(had lived)を正解として選んでしまった人も多いはず。なぜ④が不正解かということ、過去完了というのは(現在完了が、現在を最終到着地点(基準点)として、現在までの「完了・結果」「経験」「継続」を表すのに対して)、過去のある一時点を最終到着地点(基準点)として、その時までの「完了・結果」「経験」「継続」を表す形だ。現在完了の基準点が「現在」なので、それが「過去の一時点」に移動したのと考えればいいだろう。

(ex) The train had already left before they got to the station.

彼らが駅に着く前に、列車はもう出発してしまった

She had had several proposals of marriage before she was thirty.

彼女は30歳になる前にプロポーズを数回されたことがあった

したがって**過去完了を用いる場合には、前提としての過去の一時点(基準点)を表す表現が必ず必要になる**のだ(それが無いのに過去完了だけの単独の英文というのは非常に不自然な英文ということになる)。

本問の場合、when I was a child(子供の頃)という表現があるが、これは過去の一時点を表す表現ではない(子供時代というのは「一定の幅のある期間」であり、「点」ではない)。したがって(過去の一時点(基準点)を表す語句がないのだから)過去完了形は使えないのだ。